



H25 ☎ 鈴木 涼子さん

国連大学サステナビリティ高等研究所 ESDプログラム プログラムアソシエイト



●現在の職業について

小さい頃からの憧れだった国連に関する仕事に就いて現在2年8か月目を迎えました。国連大学の研究所にてESD（持続可能な開発のための教育）プログラムのプログラムアソシエイトをしています。具体的には、ESDに取り組む地域や高等教育機関のためのネットワークの事務局運営で、そのネットワークの国際会議や若手研究者・実務者のリーダーシップ育成のための国際研修プログラムのコーディネートに従事しています。参加者の募集や選考、宿泊先や交通手段の手配などの参加者へのサポートだけでなく、会議プログラムの組み立てなど、海外の主催者との調整業務にも携わっています。大学院で学んだ分野に仕事で関わることが出来ているので、非常にやりがいを感じています。

●留学経験について

中学生の時にアメリカへホームステイをしたのが初めての海外経験です。その後、大学1年時に語学留学でカナダへ、そして3年時に、交換留学で再びアメリカへ行きました。また、ミャンマーへのスタディツアーに参加したこともあります。大学を卒業し社会人を経験した後に、イギリスの大学院で勉強するために、県からの奨学金を受給しました。小学生の頃に、メディアから伝えられる世界の紛争のニュースがきっかけで世界平和について考えるようになり、国連の役割に興味を持ちました。そして、国連の組織で働くためにはどうすればよいかを調べ、その目標実現の近道となる大学に入学し、語学を磨き、国際関係だけでなく、さまざまな知識を習得する努力をしながら、大学生活を送っていました。ミャンマーで途上国の教育環境を目の当たりにして以来、教育の支援に携わりたいと考えようになりました。大学院では国際教育開発学の専門知識を身につけ、ユネスコバンコク事務所でインターンをして経験を積んだことが、今の仕事につながったと思います。常に目標達成のためには今何をすべきか、という視点で学生時代や社会人時代を過ごし、留学中にネットワークを広げることが出来たことが留学での大きな収穫だと感じています。

●留学経験はどのように社会の中で役立っていますか？

自分にとっては留学中で得られた4つのことが挙げられると思います。

語学力 大学院での授業はディスカッションがメイン。社会人経験のある留学生が殆どだったので、実務で使う英語をディスカッションを通して身に付けることができました。日本で仕事をしている時は語学力を磨き、国際感覚を身に付けるように心掛けていました。

行動力 留学中は生活基盤を整えるのも自分次第です。例えば携帯電話を契約するのも、すべての交渉が英語なのでひと苦労。また、授業でわからないことを聞きに教授のオフィスを訪ねることで、他のたくさんの情報も教えてもらえたり。「自分が行動したものだけしか手に入らない」環境に身を置く経験を通して、行動力を身に付けることにつながったと思います。

ネットワーク 大学院へ行く目的の一つとして、国際社会で活躍する方々とのネットワークを広げることも考えていました。特に世界各地から集まったバックグラウンドの豊かな国際社会で働く仲間と出会えたのは留学での一番の収穫かもしれません。今でも連絡を取り合い、自分たちの仕事で取り組んでいることや国際開発の最新の情勢などの情報交換をすることもあり、現在でも仲間から多くのことを学ばせてもらっていると感じます。

考える力 留学先では、自分で研究計画を立て、研究方法を調べたり、文献を探し、論文を書き進めたりと、自分で考えながら進めるという力がつきました。これは社会に出てからの仕事の進め方と同様ではないでしょうか。留学する前と比べると、よく考えるようになったと実感します。

●メッセージ

今、目標や夢がある人はぜひそれを追いつけてほしいと思います。どんなにつらいと思っても諦めないことが大切だと伝えたいです。それに向かって努力し続ければ必ずチャンスが訪れて、叶えられると信じています。もし目標を探しているのでしたら、まずは好きなものを見つけることでもよいと思います。

また、私の携わっている国際開発の仕事はネットワークから情報が入ってくることもたくさんありますので、人とのつながりはとても大切ですね。